

日本人類学会進化人類学分科会第 43 回シンポジウム
「"セクハラ"の進化人類学はどこまで可能か？」

2019 年 6 月 22 日(土)13:30~17:30

キャンパスプラザ京都 5 階・第 2 演習室

世界中で論争を巻き起こしているセクハラ問題の背景を考えてみたい。動物行動学の進歩によって、さまざまな動物種でのオスメスの社会関係が明らかになって、霊長類でも多様なオスメスの優劣が知られている。そこで、今回は、オスメスの優劣関係や「ハラスメント」のヒトにつながる進化を考えるために、サルやチンパンジーやボノボ、オランウータンなどのオスメス関係に注目する。一般的には、サル社会ではオスがメスよりも社会的優位とされることが多いが、じっさいにはオス優位がはっきりしない種や種内での多様性もある。また、人類でも妻が夫を叱り飛ばしたりするような具体的な事例にはことかかないが、多くの社会では男性の優位性が問題になることが多い。そこで、オスメスの優劣にかかわる社会関係について、人類進化史的な検討をしてみたい。進化を考えるにあたって、単純に、生得的な交渉パターンとして考えるのではなく、個体間の齟齬、社会的な影響なども考慮して、共存にともなう社会的な生成として、セクハラを含む社会交渉を理解することは可能だろうか。こうした、サルとヒトの行動を理解する視座にも、検討をくわえることも期待したい。

13:30 趣旨説明 鈴木滋(龍谷大学国際学部)

13:40 高畑由起夫(関西学院大学名誉教授)「霊長類の性と暴力:“sexual coercion”をめぐる進化生物学(仮題)」

14:20 橋本千絵(京都大学霊長類研究所)「ボノボ・チンパンジーにおける、オスからメスへのハラスメントについて(仮題)」

15:00 休憩

15:10 田島知之(京都大学大学院理学研究科人類進化論研究室)「オランウータンにおける性行動の強制(仮題)」

15:50 コメント1:宇田川妙子(国立民族学博物館)

16:10 コメント2:中村美知夫(京都大学大学院理学研究科)

16:30 休憩

16:40 総合討論

17:30 終了

懇親会を予定しています。みなさまのご参加をお待ちしています。

連絡先:鈴木滋(龍谷大学)suzuki@world.ryukoku.ac.jp